

うみさと暮らしのラボ

～里山・里海の資源をいかす小さな仕事とネットワークづくり

活動地域 南三陸町と近隣地域

sustainability

1. シェア加工場 “パン菓子工房 oui”

背景

クラウドファンディングをはじめみなさまのご寄付・ご支援によって2017年2月に竣工したパン菓子工房oui（ウイ）は、シェア加工場としてのスタートを切りました。

おもな実績

- ・工房利用者の会員数（2017年2月～2018年3月）
のべ20名、スキルアップ講座3回開催 10名参加

成果

工房本格稼働1年目の今年、利用者のなかから屋号を掲げて自らのパンの製造販売、パン教室を始めた個人・グループが4つ生まれました。

また、ウイの製造スタッフとして地域人材を2名雇用し、パン・菓子の商品企画・製造・販売でシェア加工場の経営を支えています。毎週2回の工房直売と、町内外で計21回のイベント販売を行いました。工房アドバイザー、町内の農・海産物生産者と連携して地産食材を取り入れた商品が40種以上生まれたほか、オリジナル商品の製造依頼や新たな地産食材の使用依頼も増えてきました。

体にやさしく安全安心なパン・菓子であると知っていただくことができ、子育て世代や高齢者を対象とするイベントを盛り上げる一助ともなるなど、パンを通してこれまでにはなかった地域のつながりが生まれています。

*この活動には「しんきんの辯 復興応援プロジェクト」助成、パブリックリソース財団「あい基金」助成をいただきました。



利用会員たちで協力しあって、工房前での共同販売をおこないました。それぞれの個性的なパンが並び、ちょっとしたパン祭りの雰囲気になりました。

上段：利用者達が使用中の工房内のように
下段：カンパニーニュなどのハード系のパンは町内でここだけ

2. WEと一緒に小さなナリワイ塾 第1期

背景

「月3万円ビジネス」の考え方に基づき、地域に根ざし複業・副業として自分のペースで長く続けられる小さな仕事をつくる考え方を学び実践する連続講座をはじめて行いました。

おもな実績

- ・講座2回、勉強会4回、発表会 のべ60名参加

成果

鶴岡ナリワイプロジェクト・井東敬子さんをアドバイザーに迎えた講座を皮切りに、宿題、勉強会、実践を通じて受講者に8か月間伴走する形で進めました。その結果、受講者企画のイベントが3件（カフェ、マルシェ、ワークショップ のべ186名参加）開催されたほか、期末の発表会では、4名が代表で自身の事業計画の一部をプレゼンし、実際にその場でのモニターエクスperienceを提供しました。

その後2018年10月までに7名が実際にマルシェに出店する、有料ワークショップを開催する、副業にするなどの小さなスタートを切っています（イベントカフェ1名、イラスト2名、手芸店1名、染色WS1名、自然体験ガイド1名、司会1名）



上段左：鶴岡ナリワイプロジェクトの井東敬子さんによる講座の第2回目。どんな人がお客様なのかをテーマに
上段右：受講生の一人が初めてイラストで仕事をしました
下段：受講生が作ったハンドメイドの服をモニターエクスperience

うみさと暮らしのラボとは？

この町での暮らしが次の世代へ続くことを願う「南三陸まなびの女子会」のビジョンを背景に、森里海のめぐみを生かす知恵を学び、つながり、実践し、小さなローカル経済とともにある、楽しく循環する豊かな暮らしを探るプロジェクトです。



3. 里山の実技講座と勉強会

背景

2016 年度に続き、小さな仕事につながる可能性のあるスキルをプロに学ぶ講座とワークショップを行いました。

おもな実績

- ・シルク講座～整糸・染・織 5回開催 のべ 33名参加
- ・リノベーション講座 2回開催 のべ 11名参加
- ・木工・竹講座 6回開催 のべ 41人参加
- ・食の講座 3回開催 のべ 27名参加
- ・第2のふるさとカフェ 2回開催 のべ 17名参加

成果

例えばシルク講座受講者グループは、繭から2種類の糸を作る、染める、織るまでの工程を2年間かけて身につけ、織り作品の展示、製作、販売を始めました。さらに、来訪客にシルクの工程について説明しています。

同様に染色、木工、竹などの分野でも、講座受講者同士が助け合い、地元事業者の協力を得てサンプル商品制作や、有料ワークショップなどを行いました。草木染め、竹林整備と竹のモノづくり、木工ワークショップなどは、地元の方向けやスタディツアーや向けの開催が始まっています。



上段：NPO 法人トージバさんを講師に、竹テントマスター養成講座

下段左：シルク講座で自分で染めた真綿を糸にして、いよいよ織り機に

下段中：木工ツールづくり 下段右：草木染めワークショップ

4. ひころマルシェとネットワークづくり

背景

2015 年度から南三陸町入谷「ひころの里」の原っぱで、オーガニック志向の「ひころマルシェ」を開催しています。

おもな実績

- ・2017年初夏第4回入場者数 1030人・出店ブース数 43
- ・2017年秋第5回入場者数 1182人・出店ブース数 43

成果

ひころマルシェは回数を重ねて認知度があがり、多くの出店、来場者を数えるようになりました。自然のなかでの子どもも遊び場が充実し、口コミで「子ども連れ行きやすい場所」と広まったことが子育て世代の来場につながっています。また、ウィが声かけした地域シニアの手づくり食品などの出店も増え、あたたかい世代間交流が生まれています。講座や勉強会の参加者の実践機会としても機能し、マルシェでの出会いを通じて情報交換、仕事の受注、協働がより活発になってきました。

運営面では若者を中心にひころマルシェ実行委員会への参画が徐々に増え、2018 年度からの主催は実行委員会に移管できることになりました。今後ウィは事務局を担います。

マルシェ来場者の声

- ・仙台に行かないところこんな楽しいイベントはないと思っていた（30代女性）
- ・古本屋さんがよかった、まさか町内にこんな素敵なお人がいると思わなかった（10代女性）
- ・ひころマルシェの風景は、希望（20代女性）

*この活動2~4は、みやぎ地域復興支援助成を受けておこないました。



頁右上：ひころマルシェ 2017 初夏の様子

下：秋のマルシェではアップサイクルをテーマに、ダーニング（縫い物）講座（講師：ミスミノリコ）を開催

南三陸女性の拠点プロジェクト

女性のしごと相談窓口事業 *career consulting*

活動地域 南三陸町と近隣地域

背景

女性たちの「働きたい」を応援するために、2017年10月よりWEは宮城県の「子育て女性就職支援事業の気仙沼・本吉圏域拠点」となりました。専任の産業カウンセラーによる相談窓口を開設するとともに、「働く」にまつわる不安や困難をやわらげる講座を企画・開催しました。

おもな実績

講座4回 計20名参加、相談窓口23日間開設、支援人材の育成（2名）、就職支援・女性サポートの関連情報収集

成果

「子育て世代の女性×働く」を軸に、地域にこれまでなかったサービス提供を開始できましたが、いまだ知名度が低いのが課題です。

*この事業は宮城県子育て女性就職支援拠点育成事業の一環としておこなわれました。



写真はWE事務所内にて
対面相談のイメージです



南三陸女性の拠点プロジェクトとは？

公的女性サポートセンターは都市にしかありません。可能性を広げる講座、安心して相談できる場、集い学びつながる機会を提供し女性たちをエンパワードする場を小さな町で運営する試みです。

南三陸女性の拠点プロジェクト

女性のエンパワーメント事業 *empowerment*

活動地域 南三陸町と近隣地域

背景

被災地では震災による喪失と環境変化が大きなストレス要因になっていることに加え、昔からの地域社会の慣習が女性たちを固定的な役割にしばる傾向があることから重層的な生きづらさを生んでいます。これまでの聞き取りからニーズを探り、2017年10月よりエンパワーメントの基盤となる3つの力をつける講座を開始しました。

おもな実績

- ・ココロとカラダの力、コミュニケーションの力、つながり・学ぶ力をする講座を19回開催、のべ101名参加
- ・インフォーマルな相談窓口（相談カフェ）の開設

成果

講座の参加者から「家族や職場でのコミュニケーションの質が劇的に好転した」という声や、「以前より心身の不調に自分で対処できるようになった」との声があがっています。

また、問題を抱えながらもカウンセリングに抵抗が大きい方が多いため、女性のしごと相談窓口開設日以外でも、日常で気づく地域の女性たちの変化（落ち込み、元気のなさ）に対し、スタッフが声をかけて相談に乗る、本人の希望があった場合はカウンセラーも同席するという取り組み（相談カフェ）をおこないました。

*この事業は「タケダいのちとくらしプログラム」の助成でおこなわれました。



ヨガ教室、更年期講座、体と心に良い食の講座、NVC（共感的コミュニケーション）の手法を使って人との関係性をよくする講座、草の根で活動する女性たちをゲストに等身大の対話をおこなう勉強会などを開催



community



子そだてフェスタでは流しうめんに
キッズたちがおはしゃぎ

南三陸町でのその他のコミュニティ活動

- 第3回「みんなの子そだてフェスタ in 南三陸」を地元ママサークル「やってみるもん！委員会」と共催。協力：歌津地区復興支援の会 一燈、(一社)東北ファミリア
- 宮城シングルマザー親子の会 wawawa を2回開催
- 刺し子サークル「リアンの会」を19回開催
- 南三陸町主催の「福祉健康まつり2017」にブース参加
- (一社)「星つむぎの村」と共催で、南三陸町庁舎にてプラネタリウム上映会を実施
- 南三陸町内でのイベント屋台出店（歌津夜市、入谷八幡神社例祭入谷打囃子、花見山ランド、コワーキングスペース M-LAB）



seminar



JICA研修、講師役の南三陸町生活研究グループ連絡協議会のおふたりと

講演、セミナー、研修受け入れ

- JICA「農村女性能力向上コース」研修生12名を受け入れ。
- 代表・石本めぐみによる登壇・講演／国連ウィメン日本協会横浜主催「国内外の事例に学ぶ、地域コミュニティと女性のリーダーシップ」／熊本県男女共同参画センター研修「災害復興における男女共同参画」／埼玉県男女共同参画推進センター女性リーダー養成講座「女性リーダーに必要な視点とは——復興支援の現場から」／流山市生涯学習センター「リーダーから学ぶ——東北3県の次世代女性リーダー育成」ほか、計20回

in Tokyo



こちらでのワカメまつりも3回目

サポーターたちとともに～東京でのイベント・広報活動

- 東京・谷中「芸工展」に参加、「パンと海藻」展開催。
- 東京・上野桜木あたりにて「三陸ワカメまつり」開催。ろじのマルシェ、ワカメしゃぶしゃぶなど。会場内みんなの座敷にて「知ってみよう南三陸の暮らし～ひころの里のお母さんとお茶っこしよう」を南三陸町移住支援センターと共に。



台風に見舞われましたが、パンと海藻展を元気に開催

●2017年度 決算報告(概算)2017年6月1日～2018年5月31日

収入(円)	25,442,076	支出(円)	25,442,076
助成金・補助金	15,259,116	プロジェクト費	29,480,710
自治体からの助成金・補助金 (*1)	5,843,625	交流事業	144,225
民間からの助成金 (*2)	9,415,491	人材育成事業	17,620,980
寄付	1,132,968	うみさと暮らしのラボ事業	9,448,630
プロジェクト指定寄付 (*3)	62,101	うみさと暮らしのラボ事業(パン菓子工房)	2,266,875
一般寄付 (*4)	1,070,867		
事業	8,839,922	管理費	903,709
交流事業	79,000	法人税、住民税及び事業税	22,006
人材育成事業 (*5)	5,875,880		
うみさと暮らしのラボ事業	742,220		
防災事業	93,035		
広報事業	80,000		
うみさと暮らしのラボ事業(パン菓子工房)	1,969,787		
会費	210,000	当期正味財産増減額	-4,964,349
その他	70	前期繰越正味財産額	12,724,397
		次期繰越正味財産額 (*6)	7,760,048

*1 内訳：みやぎ地域復興支援助成金、宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金／*2 内訳：あい基金、東日本大震災現地NPO応援基金【特定助成】「しんきんの絆」復興応援プロジェクト、タケダ・いのちとくらし再生プログラム第2期、TOMODACHIイニシアチブ(J.P.モルガン)／*3 ひころマルシェ／*4 寄付者名簿(5万円以上)はホームページにて掲載しております。／*5 NPO法人JEN様からのグラスルーツ・アカデミー東北第三期受託事業を含む。／*6 複数年度にまたがる事業への助成金などが含まれます

Message from Women's eye

2017年度をふりかえって（2017年6月～2018年5月）



WEスタッフ、南三陸町の事務所前にて

「**ウィメンズアイ**」（以下WE）を設立した2013年時点での中期ビジョンは「仮の暮らしが終わるとき、三陸沿岸被災地の女性たちが自らの場所でいきいきと活躍している」でした。南三陸町は、2018年2月時点で同町の仮設全入居者243人が次の住まいに移るめどがついたため、仮設住宅を2019年3月末までに全廃する方針を決めました。5年目にして、中期ビジョンにもとづく活動が一区切りを迎えたことになります。

2017年1月に事務所を登米市から南三陸町入谷に移しました。ここ南三陸町で女性たちのエンパワーメント拠点を運営していこうとしています。WEはエンパワーメントとは「自分で考え、自分で選択し、自分らしく生きていくための力をつける」ことだと捉え、そのプロセスを支えていきます。力をつけた女性たちがつながり、暮らしに根ざした課題に自らの力で関わっていくことで地域が変わります。復興の過程で踏み出した女性たちの姿がそれを証明しています。私たちは、地域の女性たちが活動する施設・団体と連携し、行政、社協、さまざまなセクターと協力しながら、楽しく工夫し仲間たちとともに互いの力を引き出す機会を広げています。

さらに広域ではグラスルーツ・アカデミー東北を通じて、福島・宮城・岩手の草の根で活躍する若手女性リーダーたちが出会い助け合うネットワークをつくり続けています。彼女たちと拓いていく未来が、いのちと暮らしを見つめるやさしいまなざしに満ちていることを信じて。

私たちの活動は皆様に支えられています。どうか、**ウィメンズアイ**を応援してください

賛助会員（WEメンバー）になる 登録フォーム <http://womenseye.net/wemember>をお送りください。ご入金を確認のうえ、登録いたします。
個人：年会費(1口)3,000円 団体・企業：年会費(1口)10,000円

寄付をする 下記連絡先宛てに、お名前、ご連絡先、お振込み（予定）日、領収書の宛名をご一報ください。

振込み口座
〈銀行の場合〉
ゆうちょ銀行 金融機関コード9900 店番：818
預金種目：普通
店名：八一八店（ハチイチハチ店）
口座名：特定非営利活動法人< b>ウィメンズアイ
口座番号：1966320

〈郵便局からの場合〉
郵便振替口座：18190-19663201
口座名義：トクヒ **ウィメンズアイ**



南三陸町での活動報告会



グラスルーツ・アカデミー東北国内研修

特定非営利活動法人**ウィメンズアイ**

Women's Eye

ホームページ：<http://womenseye.net/>

ブログ：<http://womenseye.blogspot.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter：<https://twitter.com/womenseye1>

〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷字山の神平10番1号

電話／FAX 0226-25-9517 メール info@womenseye.net

賛助会員（WEメンバー）
登録フォームは[こちら](http://womenseye.net/wemember)



○2017年度末現在
正会員：33名 賛助会員：25名 スタッフ総数：9名
ボランティア参加者数：年間述べ164名

事務局長 栗林美知子

○役員一覧（2018年12月現在）

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美（弁護士）

理事 西村和代（カラーズジャパン（株）代表、エディブル・スクールヤード・ジャパン共同代表）

理事 清野浩司（中小企業診断士）

理事 塩本美紀

理事 江本嘉伸（地平線通信代表世話人）

理事 田島誠（環境エネルギー政策研究所特任研究員）

理事 田浦佐知子

監事 成田由加里（公認会計士・税理士）

